

『枕草子』『雪のいと高し降りたるを』

1、はじめに

・作者：清少納言

・成立：平安時代（1001年ごろ）にはほぼ完成していたか

〔平安時代は794～1185年ごろ〕

・ジャンル：随筆

・特徴：平安時代中期に中宮定子に仕えた清少納言が書いた随筆。本来は「まぐらそつし」と呼ばれる。『枕草子』は『源氏物語』の心情的な「ものあはれ」に対して、知性的な「をかし」の世界観を作った。前者は、見て聞いて感じたものをしみじみと思つような感覚で、<sup>1</sup>後者は、感じたものを客観的に捉え表現するようつなものとされる。

・要約：雪が降り積もる中、中宮定子の問いに、清少納言が当意即妙な返答をした。これに対し定子は満足し、他の女房も感心した。

2. 1、本文

雪のいと高う降りたるを、例ならず御格子参りて炭櫃すびつに火おこして、物語などして集まり候むかひふに、「少納言よ。香炉峰かうろほうの雪いかならむ。「と仰せらるれば、御格子あげさせて、御簾みすを高くあげたれば、笑はせ給ふ。

人々も「さることは知り、歌などに入歌入ど、思ひこそ尋らざりけれ。なほこの宮の人にはと入まなめり。「と言ふ。

2. 2、本文

雪のいと高う<sup>①</sup>降りたるを<sup>②</sup>、例ならず<sup>③</sup>御格子<sup>④</sup>参り<sup>⑤</sup>て炭櫃<sup>⑥</sup>に火おこして、物語<sup>⑦</sup>などして集まり候<sup>⑧</sup>ふに、「少納言<sup>⑧</sup>よ。香炉峰<sup>⑨</sup>の雪いかならむ。「と仰せらるれば<sup>⑩</sup>、御格子あげさせて、御簾<sup>⑪</sup>を高くあげたれば、笑はせ給ふ<sup>⑫</sup>。

人々も「さるごと<sup>⑬</sup>は知り、歌などいさ入歌入と、思ひこそ尋ひせりしれ。なほこの宮の人にはさべき<sup>⑭</sup>なめり<sup>⑮</sup>。」と言ふ。

3、補足・注／重要単語・文法

①高つ…ク活用形容詞「高し」の連用形「高く」のウ音便。

②を…接続助詞。順接とする立場と逆説とする立場がある。ここでは順接とする。普段、口の中は御格子を上げているが、雪が降ったために、いつもと違い御格子を下げているという解釈。

③例ならず…いつもと違い

④御格子…格子を尊ぶ語。格子とは、細い角材を縦と横に組み合わせたもので、戸や窓にはめ、風雨を防ぐ。部しんみ。

⑤参り…「御格子参る」の形で、お上げする、お下げする。文脈により解釈する。ここではお下げする。

4

⑥炭櫃…火鉢。もしくは囲炉裏。

⑦物語…世間話。雑談。

⑧少納言…作者の清少納言。

⑨香炉峰…中国江西省北端にある廬山の峰。白居易の歌に「香炉峰雪撥簾看（香炉峰の雪は簾を撥けて看る）」とある。当然香炉峰は中宮定子のいる場所から見えるはずもない。しかしその様子を問うことで、この歌を踏まえて簾をかがけて外を見せよという投げかけをした。

⑩仰せらるれ…二重敬語。尊敬の下二段動詞「仰す」の未然形＋尊敬の助動詞「らる」の已

然形。二重敬語は、尊敬の語を重ねて使用する。天皇、皇后、中宮などの位の高い人や、その文章中での位の最も高い人などに用いられる。ここでは中宮定子に対する敬意。最高敬語とも。

⑪ **せ給ふ**…二重敬語。尊敬の助動詞「せ」の連用形＋尊敬の四段補助動詞「給ふ」の終止形。

⑫ **ちるいじよ**…そのようないじよ。そのような事柄。いじよは、「香炉峰雪撥簾看（香炉峰の雪は簾を撥（か）か（び）て看（み）る）」とある白居易の歌のいじよ。

⑬ **ちんへき**…そしであるへき。ふちわじよ。し変動詞「ちり」の連体形＋当然の助動詞「へき」の連体形である。「ちんへき」の撥音便「ちんへき」の無表記化。

⑭ **なめり**…であるなうだ。断定の助動詞「なり」の連体形＋推定の助動詞「めり」の終止形である。「なめり」の撥音便「なめり」の無表記化。



5. 1、本文と現代語

雪がとても高く降り積もったので、いつもと違い御格子をお下げし申し上げて炭櫃に火をおこして、世間話などをして集まり

**雪のいと高う降りたるを、例ならず御格子参りて炭櫃に火おこして、物語などして集まり**

お仕え申し上げていると、(定子様が)「清少納言よ。香炉峰の雪はどのようだろう。」「とおっしゃるので、

(私は)御格子を上げさせて、御簾

**候ふに、「少納言よ。香炉峰の雪いかならむ。」「と仰せらるれば、御格子あげさせて、御簾**

を高く上げたので、(定子様は)笑いなせる。

**を高くあげたれば、笑はせ給ふ。**

(周りの)人々も「そのようなことは知っていて、(こういつときは)歌になど詠みはするけれど、(御簾を上げるのは)思いもよらなかつた。(あなた＝清少納言は)やはりこの宮の(お仕えする)人

**人々も「そのことば知り、歌などこそ入歌入と、思ひこそ尋ふむひしれ。なほこの宮の人**

にぶさわしいようだ。」「と言ふ。

**にほせ入まきなめり。」「と言ふ。**

## 5. 2、本文と現代語訳

雪がとても高く降り積もったので、いつもと違い御格子をお下げし申し上げて炭櫃に火をおこして、世間話などを

雪のいと高う降りたるを、例ならず御格子参りて炭櫃に火おこして、物語などして集まりお仕え申し上げていると、(定子様が)「清少納言よ。香炉峰の雪はどのようだろう。」「とおっしゃるので、(私は)私(は)御格子を上

して集まり候ふに、「少納言よ。香炉峰の雪いかならむと。」と仰せられたは、御格子あげさせて、御簾を高く上げたので、(定子様は)笑いなさる。

げさせて、御簾を高くあげたれば、笑はせ給ふ。

(周りの)人々も「そのようなことは知っていて、(こういうときは)歌になど詠みはするけれど、(御簾を上げるのは)思いもよらなかつた。(あなた＝清少納言は)やはりこの宮の

人々も「さるごとくは知り、歌などにこそ入歌入と、思ひこそ尋ふぞつね。なほこの宮の世人にはさへきなめり」と言ふ。

人にはさへきなめり」と言ふ。



6、品詞分解

|     |               |       |
|-----|---------------|-------|
| 単語  | 品詞等           |       |
| 雪   | 名詞            |       |
| の   | 格助詞           |       |
| いと  | 副詞            |       |
| 高う  | 形容詞・ク・連用形・ウ音便 |       |
| 降り  | 動詞・ラ四・連用形     |       |
| たる  | 助動詞・存続・連体形    |       |
| を、  | 接続助詞          |       |
| 例   | 名詞            |       |
| なら  | 助動詞・断定・未然形    |       |
| ず   | 助動詞・打消・連用形    |       |
| 御格子 | 名詞            |       |
| 参り  | 動詞・ラ四・連用形・謙讓  | 作者→中宮 |
| て   | 接続助詞          |       |
| 炭櫃  | 名詞            |       |
| に   | 格助詞           |       |
| 火   | 名詞            |       |
| おこし | 動詞・サ四・連用形     |       |
| て、  | 接続助詞          |       |
| 物語  | 名詞            |       |
| など  | 副助詞           |       |

|      |                            |       |
|------|----------------------------|-------|
| し    | 動詞・サ変・連用形                  |       |
| て    | 接続助詞                       |       |
| 集まり  | 動詞・ラ四・連用形                  |       |
| 候ふ   | 動詞・ハ四・連体形・謙讓               | 作者→中宮 |
| に、   | 接続助詞                       |       |
| 「少納言 | 名詞                         |       |
| よ。   | 間投詞                        |       |
| 香炉峰  | 名詞                         |       |
| の    | 格助詞                        |       |
| 雪    | 名詞                         |       |
| いかなら | 形容動詞・ナリ・未然形                |       |
| む。」  | 助動詞・推量・終止形<br>(連体形という説もある) |       |
| と    | 格助詞                        |       |
| 仰せ   | 動詞・サ下二・未然形・尊敬              | 作者→中宮 |
| らるれ  | 助動詞・尊敬・已然形                 | 作者→中宮 |
| ば、   | 接続助詞                       |       |
| 御格子  | 名詞                         |       |
| あげ   | 動詞・ガ下二・未然形                 |       |
| させ   | 助動詞・使役・連用形                 |       |
| て、   | 接続助詞                       |       |

|     |                |       |
|-----|----------------|-------|
| 御簾  | 名詞             |       |
| を   | 格助詞            |       |
| 高く  | 形容詞・ク・連用形      |       |
| あげ  | 動詞・ガ下二・連用形     |       |
| たれ  | 助動詞・完了・已然形     |       |
| ば、  | 接続助詞           |       |
| 笑は  | 動詞・ハ四・未然形      |       |
| せ   | 助動詞・尊敬・連用形     | 作者→中宮 |
| 給ふ。 | 補助動詞・ハ四・終止形・尊敬 | 作者→中宮 |
| 人々  | 名詞             |       |
| も   | 係助詞            |       |
| 「さる | 連体詞            |       |
| こと  | 名詞             |       |
| は   | 係助詞            |       |
| 知り、 | 動詞・ラ四・連用形      |       |
| 歌   | 名詞             |       |
| など  | 副助詞            |       |
| に   | 格助詞            |       |
| さへ  | 副助詞            |       |
| 歌へ  | 動詞・ハ四・已然形      |       |
| ど、  | 接続助詞           |       |

|      |                        |  |
|------|------------------------|--|
| 思ひ   | 動詞・ハ四・連用形              |  |
| こそ   | 係助詞（係）                 |  |
| 寄ら   | 動詞・ラ四・未然形              |  |
| ざり   | 助動詞・打消・連用形             |  |
| つれ。  | 助動詞・完了・已然形（結び）         |  |
| なほ   | 副詞                     |  |
| こ    | 名詞                     |  |
| の    | 格助詞                    |  |
| 宮    | 名詞                     |  |
| の    | 格助詞                    |  |
| 人    | 名詞                     |  |
| に    | 格助詞                    |  |
| は    | 係助詞                    |  |
| さ    | 動詞・ラ変「さり」・連体形（撥音便・無表記） |  |
| べき   | 助動詞・当然・連体形             |  |
| な    | 助動詞・断定・連体形（撥音便・無表記）    |  |
| めり。」 | 助動詞・推定・終止形             |  |
| と    | 格助詞                    |  |
| 言ふ。  | 動詞・ハ四・終止形              |  |